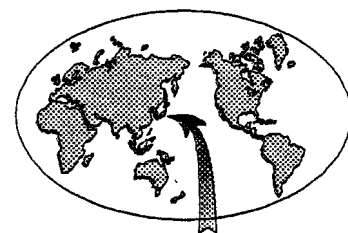


# 近畿地区会議ニュース



## 平成 25 年度 日本学術会議

### 近畿地区会議の活動について

近畿地区会議代表幹事  
第二部会員 橋田 充  
(京都大学大学院薬学研究科教授)

第 2 2 期の日本学術会議近畿地区会議は平成 2 3 年 1 0 月にスタートし、早いものでもう最終年度を迎えました。第 2 1 期に近畿地区会議の代表幹事を務められました苧阪直行先生の後任として、私が職責を十分果たしているか心許なく感じるころですが、残された日々を近畿地区会議の発展のために努力していきたいと思っております。

学術会議は全国を 7 地区に分け、会員及び連携会員をもって組織された地区会議を運営しておりますが、第 2 2 期の近畿地区在住の会員及び連携会員は約 4 3 0 名という大世帯で、それぞれ地区の代表的な教育・研究機関で指導的役割を果たして頂いております。地区会議運営要綱では、その目的を、学術会議の活動内容を地区内の科学者等に周知し学術会議に対する意見・要望を汲み上げて学術会議と科学者の意思の疎通を図ることと定めており、地区会議は地域社会の学術の振興を担う基本単位となっております。

近畿地区会議では、地区会議運営協議会を毎年 2 月頃に開催しその運営方針を審議しております。運営協議会は 1 2 名の学術会議会員および連携会員で構成されております。また、この運営協議会には、近畿地区会議会員も構成員となり、近畿地区の学術文化の

醸成等に関する情報交換を目的とする学術文化懇談会を併催しています。学術文化懇談会には近畿各府県代表、国際高等研究所、株式会社けいはんな、関西文化学術研究都市推進機構、大阪科学技術センターの各代表および元近畿地区会議代表幹事の方々にも参加いただいております。近畿地区における学術講演会やシンポジウムについてご意見・ご提案をいただいております。学術文化懇談会との密接な連携に基づく地区活動は、近畿地区独自のものであり、他の地区会議からも高い関心を持っていただいております。このような地区会議運営協議会と学術文化懇談会の協働体制に基づく地区活動が、広く一般市民に日本の学術の進展の現在とその社会貢献の姿を知っていただく契機になればと願うところです。

今年の地区会議運営協議会・学術文化懇談会は、平成26年3月5日（水）に京都大学で開催し平成25年度事業報告、平成26年度事業計画や今後開催予定の今年の講演会のテーマや協議会・懇談会の役割についても話し合う予定です。

社会に向けた平成25年度の近畿地区における学術会議の活動としましては、12月15日に近畿地区会議主催の学術講演会「環境といのち 智恵なすわざの再生へ」が開催されました。また、これを遡る8月には第二部（生命科学）の夏季部会が京都大学で開催され、併せて公開学術講演会「未来社会を築く生命科学と医療のフロンティア」が企画され近畿地区会議が共同主催を致しました。

科学者コミュニティを代表する日本学術会議では、現在、学術全般を展望・体系化しつつ各学術分野が必要とする大型研究計画を網羅するとともに、我が国の大型研究計画のあり方について一定の指針を与えることを目的とする「学術の大型施設計画・大規模研究計画に関するマスタープラン」の策定が進んでおり間もなく公表される予定です。本マスタープランにより、さまざまな学術分野から持ち上がった提案と地域を基盤とした検討が縦糸と横糸の様に織りなされ、我が国の学術の将来像が築かれることが期待されます。また、持続的な地球環境のための研究を推進するフューチャー・アースのプロジェクトなども推進されており、科学の発展が各分野で実感される場所ですが、一方で、科学の健全性あるいは科学者の規範が社会的にも問題となり、地域においてもこうした問題への取り組みが重要となるものと考えております。

以上、簡単ではございますが、近畿地区会議の活動を紹介させて頂きました。今後の近畿地区におきます学術会議の事業に対しまして、ご意見、ご提案がございましたら、ぜひ地区会議運営協議会委員の先生方あるいは近畿地区会議事務局（京都大学研究国際部内）までお申し出下さい。皆様方のご協力を心からお願い申し上げます。

# 未来社会を築く生命科学と医療のフロンティア

## 実施概要

日 時：平成25年8月3日（土）13時00分～15時45分  
場 所：京都大学薬学部記念講堂  
主 催：日本学術会議第二部、日本学術会議近畿地区会議、京都大学  
後 援：日本学術協力財団、日本医歯薬アカデミー

## プログラム

開会挨拶：大西 隆（日本学術会議会長、慶應義塾大学大学院政策メディア研究科特別招聘教授）  
三嶋 理晃（京都大学理事・副学長、京都大学大学院医学研究科呼吸器内科学教授・  
京都大学医学部附属病院院長）  
山本 正幸（日本学術会議第二部部長、公益財団法人かずさDNA研究所所長）

講 演 1：「ヒト生命情報統合研究の拠点構築—国民の健康の礎となる大規模コホート研究—」  
本庶 佑（静岡県公立大学法人理事長、京都大学大学院医学研究科免疫ゲノム医学  
講座客員教授）

講 演 2：「iPS細胞研究が切り開く未来の医療」  
中畑 龍俊（京都大学 iPS細胞研究所副所長・特定拠点教授）

講 演 3：「オールジャパンのアカデミア創薬研究」  
長野 哲雄（日本学術会議第二部幹事、東京大学創薬オープンイノベーションセンター  
特任教授）

## 講演の概要

平成25年の8月2日、3日に第二部（生命科学）の夏季部会が京都大学で開催され、併せて公開学術講演会が近畿地区会議との共同主催で開かれた。講師には、分子生物学、細胞治療、あるいは創薬科学の各分野の我が国のリーダーをお招きし、参加した研究者、学生あるいは一般市民の皆様には、文字通り医療と生命科学のフロンティアに触れる機会となった。講演会は、日本学術会議の大西隆会長、山本正幸第二部部長、さらに三嶋理晃京都大学理事・副学長の挨拶で始まり、最初の講師の本庶佑教授は現在取り組んでおられる大規模コホート研究の概要を紹介された。現在、臨床医学研究は大きく進歩しているが、それでもヒトの疾患の解明にはヒトの多様性（遺伝的多様性、環境・生活習慣など）を考慮した研究が重要である。そのためには、大規模集団の長期観察が不可欠で、遺伝子やゲノムのみには偏らない生命分子全ての解析が必要であるが、最近、生命情

報の網羅的解析のための技術が成熟してきたことから、大規模なコホート研究が構想されるに至った。現在、ヒト生物学はさまざまな学問領域の知恵を結集した学際的研究となっており、さらに生命情報のビッグデータの解析には、計算科学、情報学などの分野における新しい理論構築と方法論開発も必要である。本講演は、ヒト生命情報の統合を目指した新しいサイエンスの誕生を余すところなく伝えるものであった。

次いで、京都大学 iPS 研究所臨床応用研究部門長の中畑龍俊教授は、iPS 細胞医療の最新の動向を紹介し、臨床応用に近い再生医療分野として、神経細胞を用いたパーキンソン病治療や、網膜細胞を用いた加齢黄斑変性の治療、あるいは神経幹細胞を用いた脊髄損傷治療が説明された。また、患者個人から治療用 iPS 細胞を誘導するのは時間とコストがかかることから、ヒト白血球型抗原のタイプ分けに基づく再生医療用の iPS 細胞ストックの構築が重要な課題であることを論じ、こうした体制整備を通じて近い将来に iPS 細胞を用いた再生医療の臨床応用が可能となることを示された。

最後に登壇した東京大学創薬オープンイノベーションセンターの長野哲雄教授は、従来の非効率的な創薬手法から脱却して、新規医薬品の候補となるリード化合物を恒常的に創出し“本格的創薬研究”を行うために、20万種類を超える化合物がコンピュータ制御された保管庫で管理され全国の研究者に供与される体制が構築されていることを紹介され、現在はさらにヒット化合物からリード化合物を創出する最適化を行う合成拠点の整備も進められてアカデミア創薬がスタートしていることを解説された。



---

---

## 平成25年度 日本学術会議近畿地区会議学術講演会

---

---

# 環境といのち 智恵なすわざの再生へ

### 実施概要

日 時：平成 25 年 12 月 15 日（日）14 時 00 分～17 時 30 分  
場 所：京都大学芝蘭会館稲盛ホール  
主 催：日本学術会議近畿地区会議、京都大学  
後 援：日本学術協力財団

### プログラム

開会挨拶：橋田 充（日本学術会議近畿地区会議代表幹事、京都大学大学院薬学研究科・教授）

三嶋 理晃（京都大学理事・副学長、京都大学大学院医学研究科呼吸器内科学教授・  
京都大学医学部附属病院院長）

講演 1：「人間にとって地球とは何だろうか？」

安成 哲三（人間文化機構・総合地球環境学研究所・所長）

講演 2：「草木国土の声を聴く」

岡田真美子（兵庫県立大学環境人間学部・教授）

講演 3：「『自然・人間・文化』と薬」

伊藤美千穂（京都大学大学院薬学研究科・准教授）

閉会挨拶： 鈴木 晶子（京都大学大学院教育学研究科・教授）

### 講演の概要

本学術講演会は、主催の近畿地区代表幹事の著者と三嶋理晃京都大学理事・副学長の挨拶に続く、オーガナイザーの京都大学大学院教育学研究科の鈴木晶子教授による企画理由の説明から始まった。

地球環境が大きく変動するなかで、気候、生態系、水環境など様々なところで起きている変動の相互の関係を見直し、全体像を把握することが重要となっている。すなわち共生を念頭に置いた地球規模での持続可能性について考えるべき時代に入っており、持続可能な社会実現のために、人間中心主義への反省や、自然・人間・文化の関係の見直しなど、文理融合的な発想で、課題解決への道が模索されなくてはならない。

安成哲三教授は地球生命圏での進化過程で出現してきた生物種のひとつにすぎない人類が、現在、地球生命圏を育んできた、あるいは地球生命圏と共進化してきた地球表層圏（あるいは地球環境）そのものを危うくしつつある現状そのものが、地球環境問題と呼ばれるものの本質であると捉え、地球と人間の存在問題を議論された。

次に、岡田真美子教授は、阪神淡路大震災、中越地震、東日本大震災を経て「草木国土悉皆成仏」の意味が再度問われていることを説明され、我々がこれまで永年に亘って環境世界に在る「いのち」とどう向き合ってきたのか、その生命観を顧み環境の声なき声に耳を傾ける心の在り様から今後我々が歩むべき道について語られた。

最後に、伊藤美千穂准教授は“薬”という概念は人間が営む文化の存在無くしてはありえないことを説明され、薬用植物に関するフィールドワークでの経験を基盤として、人間と自然の関わりの中で経験が蓄積されることによって醸成された智慧のひとつの形であろう薬を例に取り上げ、「智慧なすわざの再生」という精神への手がかりを、人間と薬という関係に基づいて探る試みを多くの事例を挙げて話された。



## \*\*\* 日本学術会議近畿地区会議とは \*\*\*

日本学術会議は、我が国の人文・社会科学、生命科学、理学・工学全分野の科学者の意見をまとめ、国内外に対して発信する日本の代表機関です。科学が文化国家の基礎であるという確信のもとに、科学の向上発達を図り、行政、産業及び国民生活に科学を反映、浸透させることを目的として、昭和24年（1949年）1月に内閣総理大臣の所轄の下に「特別の機関」として設立されました。日本学術会議は、210人の会員と約2000人の連携会員により組織されています。

日本学術会議の活動は、

1. 科学に関する重要事項を審議し、その実現を図ること
2. 科学に関する研究の連絡を図り、その能率を向上させることを職務としています。

また、政府からの諮問に応じて答申し、または進んで政府に対して勧告する権限をもっています。さらに、国際的な活動として、国際学術団体への加入、世界各地で開催される学術上重要な国際会議への代表派遣、二国間の学術交流のための代表団の派遣及び我が国において開催される重要な学術関係国際会議の共同主催、後援などを行っています。

日本学術会議には、北海道、東北、関東、中部、近畿、中国・四国、九州・沖縄の7つの地域に地区会議が置かれています。

地区会議は、日本学術会議の諸活動を地区内の科学者等に周知徹底し、日本学術会議に対する意見、要望等を汲み上げて、日本学術会議と科学者との意志疎通を図るとともに、地域社会の学術の振興に寄与することを目的としています。

地区会議構成員は、当該地区に居住する会員又は勤務地を有する会員の中から各部ごとに選出された会員12名で構成されており、現在第2部の橋田充（京都大学大学院薬学研究科教授）が代表幹事を務めています。

### 日本学術会議地区会議運営要綱

〔平成17年10月4日〕  
〔日本学術会議第1回幹事会決定〕

改正 平成17年11月24日 日本学術会議第5回幹事会決定

改正 平成18年2月23日 日本学術会議第9回幹事会決定

改正 平成19年9月20日 日本学術会議第42回幹事会決定

（総則）

第1 日本学術会議会則第33条に基づく地区会議の運営は、この要綱の定めるところによる。

（目的及び任務）

第2 地区会議は、日本学術会議の諸活動を地区内の科学者等に周知徹底し、及び日本学術会議に対する意見、要望を汲み上げて日本学術会議と科学者との意思疎通を図るとともに、地域社会の学術の振興に寄与することを目的とする。

第3 地区会議は、前項の目的を達成するため、単独又は部若しくは委員会と共同で地区内の関係大学、関係機関・団体等の協力を得て、次の活動を行うものとする。

- (1) 科学者との懇談会の開催
  - (2) 学術講演会等の開催
  - (3) 地区会議ニュース等の発行
  - (4) 地域社会の学術の振興に寄与することを目的とする事業
  - (5) その他目的の達成に必要な事業
- (区分)

第4 地区会議の区分は次のとおりとする。

- (1) 北海道
  - (2) 東北（青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県）
  - (3) 関東（茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県）
  - (4) 中部（富山県、石川県、福井県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県）
  - (5) 近畿（滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県）
  - (6) 中国・四国（鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県）
  - (7) 九州・沖縄（福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県）
- (各地区の構成員)

第5 前項「第4」で挙げた各地区の構成員は、原則として当該地区に勤務地（勤務地がない場合は居住地）を有する会員及び連携会員とする。ただし、会員又は連携会員は、申し出により、科学者委員会及び幹事会の議を経て、所属地区を変更することができる。

(地区会議運営協議会及び事務局)

第6 各地区に地区会議運営協議会を置き、当該地区の運営及び活動に関する事項を審議・決定する。

2 各地区に所属する会員は、互選により9名以内の地区会議運営協議会委員を選出する。その際、委員が特定の部に偏らないように配慮する。ただし、地区会議運営協議会から科学者委員会に要請があった場合は、科学者委員会及び幹事会の議を経て、当該地区に所属する会員又は連携会員の中から地区会議運営協議会委員を追加することができる。なお、委員の追加を認める場合も地区会議運営協議会の委員総数は12名を超えないものとする。

3 地区会議運営協議会は、互選により会員である委員の中から代表幹事1名を選出する。代表幹事は各地区会議運営協議会を主宰する。

4 各地区における地区会議運営協議会委員及び代表幹事の選出手続きは、構成員の規模等を考慮して、各地区で定め、科学者委員会の了承を得るものとする。

5 地区会議の活動に関する事務を処理するため、幹事会が決定する関係大学事務局に地方連絡委員を置く。それに対応して日本学術会議事務局内にも地方連絡委員を置く。地方連絡委員は、各地区の構成員等との連絡調整を密にするものとする。

(事業計画)

第7 各地区会議は、年度当初において当該年度における事業計画案を策定し、科学者委員会に提出しなければならない。

2 科学者委員会は、各地区会議の原案に基づき事業計画を整理し、幹事会の議を経て決定する。

(地区会議代表幹事会)

第8 地区会議代表幹事会は、科学者委員会の委員長及び各地区会議の代表幹事をもって構成する。

2 地区会議代表幹事会は、科学者委員会委員長がこれを主宰し、幹事若干名を置く。

- 3 地区会議代表幹事は、原則として総会時に開催し、各地区会議と連絡を密にするものとする。
- 4 必要に応じて、総会時に委員会と地区会議代表幹事会の合同会議を開催することができる。

(留意事項)

第9 地区会議の事業は、法令及び規則等並びに地区会議の主旨に反しない範囲において、各地区の自主的判断に任せるものとする。ただし、各地区の事業内容等について、地区会議代表幹事会等において調整することができる。

- 2 地区会議の事業は、日本学術会議協力学術研究団体の活動と連携を保って行うことが望ましい。
- 3 地区会議は、事業を行うに当たって、他の地区会議と合同し、若しくは他の地区会議の一部の地域の協力を得て実施することができる。
- 4 各地区の地区割り、各地区間の合意により変更することができる。

(庶務)

第10 地区会議の庶務は、日本学術会議事務局企画課及び関係大学事務局において処理する。

(雑則)

第11 この要綱に定めるもののほか、地区会議の運営に関し必要な事項は科学者委員会が定める。

附 則

この決定は、決定の日から施行する。

附 則 (平成17年1月24日日本学術会議第5回幹事会決定)

この決定は、決定の日から施行する。

附 則 (平成18年2月23日日本学術会議第9回幹事会決定)

この決定は、決定の日から施行する。

附 則 (平成19年9月20日日本学術会議第42回幹事会決定)

この決定は、平成19年10月15日から施行する。

近畿地区会議運営協議会

近畿地区会議事務局

代表幹事	橋 田 充 (第2部)
	落 合 恵美子 (第1部)
	鈴 木 晶 子 (第1部)
	梶 茂 樹 (第1部)
	兵 藤 友 博 (第1部)
	河 田 潤 一 (第1部)
	竹 縄 忠 臣 (第2部)
	川 井 秀 一 (第2部)
	田 畑 泉 (第2部)
	北 村 隆 行 (第3部)
	澤 本 光 男 (第3部)
	苧 阪 直 行 (連携会員)

〒606-8501
京都市左京区吉田本町
京都大学 研究国際部研究推進課内
TEL: 075-753-2041
FAX: 075-753-2042
メールアドレス
<a href="mailto:kensui.soumu@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp">kensui.soumu@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp</a>

日本学術会議ホームページ

<http://www.scj.go.jp/index.html>